

会社概要

社名	有限会社山本美創【熊谷市】		
代表者	川上 かおり	業種	屋外広告業
従業員数	11人	URL	https://y-kanban.jp/
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・野立看板事業(広告看板、誘導看板の企画・デザイン等) ・店舗看板事業(店舗看板の企画・デザイン等) ・デジタルサイネージ 		
沿革	<p>昭和59年 現代表の父が会社設立</p> <p>平成29年 現代表の川上かおり氏が事業承継</p> <p>平成30年 「経営革新計画」承認</p>		 <p>本社外観</p>

「経営革新計画」に取り組んだきっかけ

＜当時の課題＞

○野立て看板は運転者の注意を引くよう、目立つ色、完結なメッセージ、インパクトのある表示、写真が特徴であるが、自動運転が普及した場合に運転者の道路への認識の仕方が根本から変わることが予測されていた。(従来より緩慢になる・注意を払う必要がなくなる)

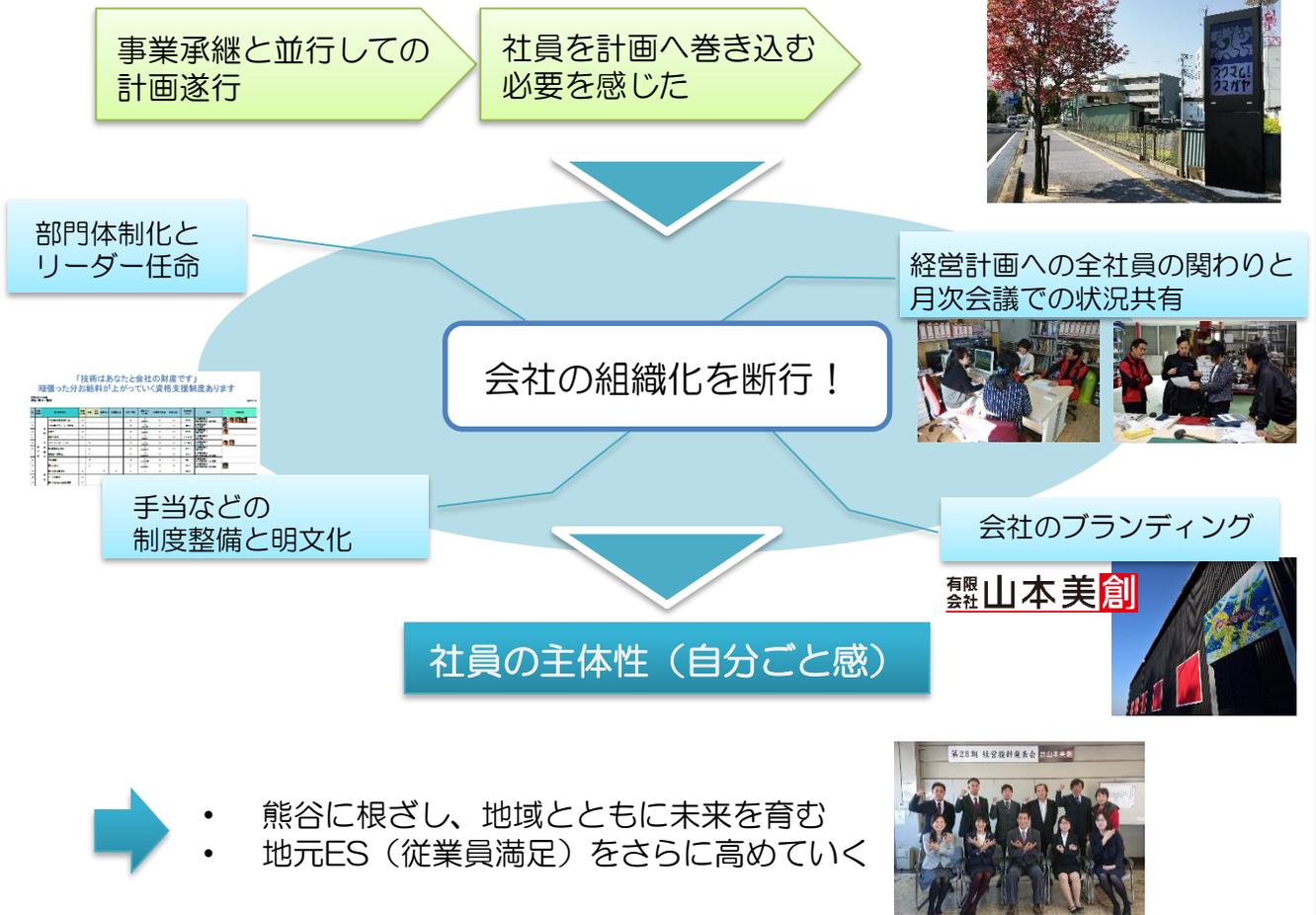
＜解決への道筋＞

○野立て看板は内容を変えられないが、デジタルサイネージであれば常に内容を変えることができ、動画を流すことも可能であったため、上記の課題解決の糸口になると考えた。

○大型のデジタルサイネージの価格が一昔前より低下しており、導入のハードルが下がっていた。

「経営革新計画」のテーマと概要

テーマ	デジタルサイネージを採用し「野立て看板」における革新を実現する
計画期間	平成29年5月～令和2年4月(3年計画) 【平成30年3月承認】



- 業界初の野立て自立デジタルサイネージ事業の確立。
- 社員が自社の強み！資格取得支援制度や技術手当を導入し、社員のモチベーション向上。
- 経営革新計画を機に、指針書、10年ビジョンを作成。売上の新柱を建てる。

「経営革新計画」の実践

1 デジタルサイネージ野立て看板の製作、販売

- 事業承継補助金を活用してデジタルサイネージ野立て看板を製作するとともに、令和元年のラグビーワールドカップ開催に焦点を合わせ、熊谷駅東口に設置した。
- 「看板で地域に貢献したい」という想いを自社の中で共有しており、「地域に貢献したい既存の取引先」から声をかけるようにしていった。その結果、徐々にデジタルサイネージの認知度が高まり、別件で話をしに行った顧客から逆にデジタルサイネージの相談をもらうようになった。

2 社内改革

- 先代の時代にはなかった営業部、施工部、事務部を設置し、部門毎にリーダーを置くなど、会社の組織化を断行した。
- 事業承継当初、事務部・営業部は施工部のある工場と離れた場所にあり、部門間のコミュニケーションがとりづらかったため、工場の隣に事務部・営業部の事務所を増築した。
- 10年後のビジョンを考える中で、早期の技術承継が必要と考え、新たな人材を2名採用した。
- 会社のブランディング構築も計画に入れ、社員の資格取得支援制度や技術手当を実行している。



従業員の皆様



新事務所

「経営革新計画」の成果

- 計画策定時より売上高、付加価値額が大幅に上昇した。また、経常利益については、計画策定時には赤字であったが、1128.2%の大幅増となり黒字化した。
- 経営革新計画作成をきっかけに目標設定の重要性、経営の方向性の統一、計画作成の重要性を痛感。それを機に経営理念、経営指針書を作成し、社員全員で事業実施を行うようになった。
- 社員全員で経営計画を作成するようになるとともに、月次会議により計画の進捗状況及び意識の共有ができるようになった。

成功の秘訣

- デジタルサイネージ広告の顧客の選定において、目先の利益にとらわれず、「地域に貢献したいと考えている企業かどうか」を判断基準とした。現在では、デジタルサイネージで地域の情報も発信しており、地域にデジタルサイネージが広く認識されるようになった。
- 社員全員で経営計画から作成するようになったことで意識が共有できるようになり、全社員のモチベーション向上につながった。
- 営業部3名の中で受注を獲得できる1名が、デジタルサイネージの魅力の伝え方を部内ミーティングで共有したことで、営業部3名とも受注を獲得できるようになった。

「経営革新計画」に取り組んでよかったこと

- 経営革新計画に取り組んだことで事業計画を立てる重要性に気づくことができた。
- やるべきこと、時期、担当割りが明確になり、会社全体で取り組むきっかけになった。
- 1日24時間365日、経営者自身の時間の創出の仕方を考える転機になった。

これから「経営革新計画」に取り組む皆様へメッセージ

目の前のお客様に向き合い、時間を使いながら並行してゼロからイチを捻出することの難しさはありますが、新しいことに計画を立て実行していく過程は、自社の強みや課題を見直す機会になりました。ただ計画を立てるだけでなく、この革新計画をきっかけに、全社で役割を持って取り組んでいくようになったことが一番の宝です。



川上社長



従業員の皆様